

# 道北・暑寒別岳

——海に飛び込むような大ダウンヒル——

1990.4.30 - 5.2 (L) 岩 毅・淳子

今年の5月連休は色々悩んだが、結局、北海道にした。北海道の山は縦走よりは登山口からピストンするコースが多い為、車を使っていくつかの山をハシゴすることにした。関西からは舞鶴小樽間にフェリーがあり、こいがかかり安い(車+2人が往復で53030円)なので、この計画にはピッタリであった。天気は本州とはほぼ反対で前半悪く後半が良かったので、前半はゲレンデスキーに終始したが、後半、暑寒別岳・旭岳～夏畑・天塩平トカニウシ山に登ることができた。

暑寒別岳 父の故郷がこの山の麓、石狩平野北部の妹背牛町で私も子供の頃、この山を眺めて雪遊びをしていた思い出がある。この山は道北・増毛山塊の主峰で標高1491m。この増毛山塊は北海道でもここと並ぶ豪雪地帯にあり、春5月でも海岸近く標高200m前後まで十分雪がある。又、この山脊はたおやかで北海道の尾根といわれる雨竜湿原をいだし、夏はネマガリダケにおおわれる尾根も、春には山スキーの別天地となる。山スキーのルートはいくつかあるが、今回は増毛登山口暑寒荘～暑寒別岳往復を狙った。

4.30 ◎◎ 午後、増毛の町に入る。まが駅前のもり田商店で入山届と暑寒荘利用届を出す。暑寒荘は地元・増毛山岳会が管理しており通常はカギがかかっているので、このもり田商店でキーを借りなければいけない(使用料はタダ)。この日は未だ時々みぞれも降る天気だったので、町内の暑寒別YHに泊まる。幸い

なことに、このYHのプレゼンター(五日市氏)は鳩も山岳会のベテラン会員で、暑寒別岳についで色々アドバイスを頂いた。

この山の山スキー通期は3~5月だが、最も人が入るのはやはり5月連休で、今年も4/28~29には20人以上が入山し、五日市氏も入ったが、吹雪の為、7日目までしか行けなかったそうだ。登山者はほとんどの道内の人だが今年も4月中旬にあの熊谷権士氏が登山していた。熊は2~3年前までは暑寒荘周辺にもかなりいたが林道工事の影響で今は西の暑寒別川奥に移動して暑寒荘周辺ではあまり見かけなくなったそうだ。但し、この山域は渡島・日高・知床と並びヒゲマシ生息域なので十分注意は必要だ。

5.1 ① この日も曇り、山は雲の中。昼まゝ、YHをあとにして暑寒荘に向う。例年だと5月連休でも暑寒荘から3km手前の道道終点までしか車は入らないが、今年も雪が少なく林道に入り暑寒荘手前200mの"下"の駐車場まで車が入った。

暑寒荘は3階建ての立派なもので中央が吹抜けになっていて、その1階にまきストーブがあり、煙突が天井を突き抜け、北国の山小屋らしい風情がある。部屋はいくつかに分れており、カーペット敷きでマットレス、毛布も十分にある。但し1階はネズミの糞と匂いがあるので食糧には注意した方がいい。

午後、3台目の佐上台(593mピーク)まで偵察に行く。佐上台までには夏道ルートと沢右ハルートがあり、後者はオーダーメイドコースの為、読図力と山勘が必要である。今年も雪不足で夏道ルートが最初雪が無く、明日の為に沢右ハルートを作りに行く。

暑寒荘下の雪をかき上げた"上"の駐車場から林道に入り、しばらく行くと上に開けた白地に出る。そして林道を狭い疎林の中に入り、又林道に出会う。ここは標高400mぐらいで、ここから斜面をトラバース気味に登り、

佐上台の下の台地に上がる。ここから林の中をグイグイ登れば急に視界が明け、日本海が見える。ここが佐上台で、この頃から雪が切れたし、山頂まで続く大雪原がまぶしく輝いていた。

5.2 ○ 朝4時、窓の外はもう明るい、快晴である。

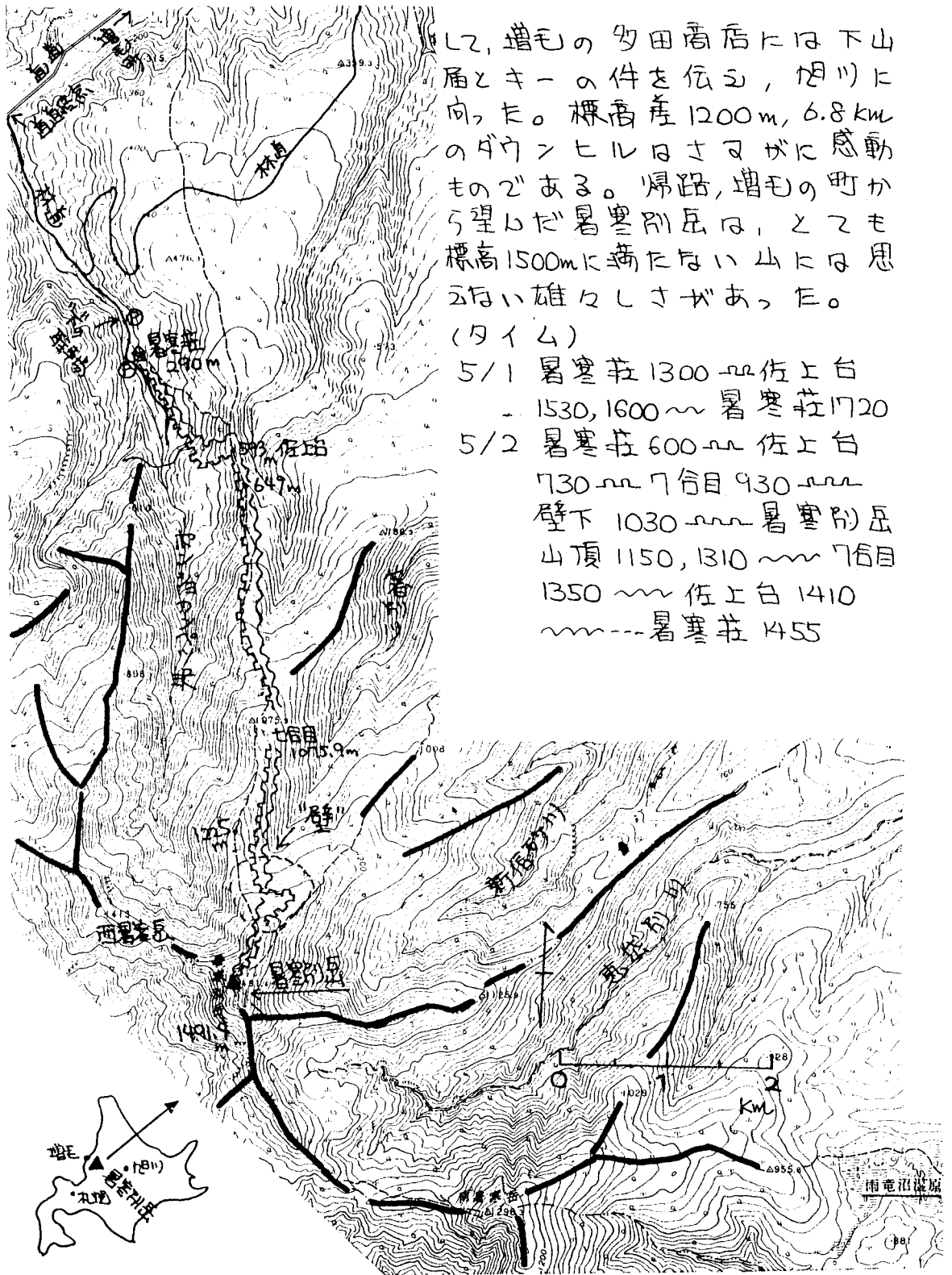
急いで湯子を起こして朝食の用意をやる。

6時出発、昨日つけたおいた沢沿いに道み649mピークから先はほとんどの木が無い広い尾根に行く。まさに山スキーの為のコースである。7台目(10759mピーク)とこの先の1225mピークは東側をトラバース気味に巻き、山頂道下の"壁"の下に着く。"壁"は著別川源頭に位置し標高1200~1400mの大斜面である。この山は最後のこの"壁"が最大の価値であり最大の問題である。ミール登行でユルユルと著別尾根に向いっつゞZigを切って行く。ここを登りきり、山頂台地に上がると純白の雨竜湿原が見えてくる。

山頂は南北に長く、南端に三角点がある。山頂からは大雪・十勝・夕張を始め、石狩湾の向こうには積丹の山々が、さらに日本海の向こうには利尻島も見えた。

さあダウンヒルである。何と云っても爽快なのは海に飛び込むような滑り出しである。"壁"の上からはまさにとろろな感じで日本海の大湿原がせま、てくる。雪質はフィルムグラスト。湯子は大き目のシュテムで、私は彼女を先にやらせながら、ギョッポン、ギョッポンの感じで飛び込むで行く。1200mから下もまだまだ滑って行けるが登り返しが面倒なので1150mあたりからトラバースに入る。このあとは斜面がゆるくなり大きなパウシルでどろどろ下る。斜面が広いので気持ちが良い。佐上台からは登りのトラバースに従いっつゞ起き出した下生えを払いながら滑った。最後の林道が一部融け始めていたので暑寒荘手前200mから板を担いだ。

小屋では、札幌からの登山者が山菜天アラを作っていて、みるをわけを頂く。小屋のキーはこのオケに渡



して、増毛の夕田商店には下山  
 届とキーの件を伝え、畑川に  
 向った。標高差1200m, 6.8km  
 のダウンヒルはさすがに感動  
 ものである。帰路、増毛の町か  
 ら望んだ暑寒別荘は、とても  
 標高1500mに満たない山とは思  
 えない雄々しさがあった。

(タイム)

- 5/1 暑寒荘 1300 ~ 佐上台
- 1530, 1600 ~ 暑寒荘 1720
- 5/2 暑寒荘 600 ~ 佐上台
- 730 ~ 7合目 930 ~
- 壁下 1030 ~ 暑寒別荘
- 山頂 1150, 1310 ~ 7合目
- 1350 ~ 佐上台 1410
- ~~~~ 暑寒荘 1455